

厄介者の雪。でも降らなければ物足りない気もする。そう、私たちはこのまちで雪と共に暮らしてきました。でも一人ではどうしようもないときは必ずあります。そんなとき助けてくれる存在がこのまちに広がりつつあります。見方を変えて、雪を地域の力に変えてきたスノーレンジャーとスノーヘルパーの活動を取り上げます。

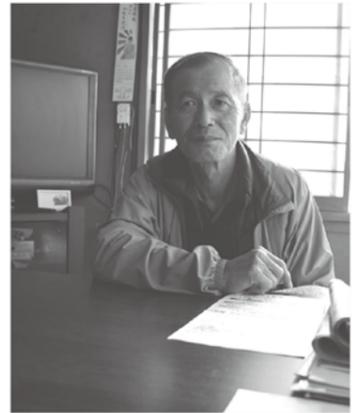
より広い地域で、 より近く支え合う

赤名雪かきボランティア スノーヘルパー

平成30年1月結成。あらかじめ日にちと時間を定め、集まったボランティアが赤名連担地で、主に高齢者世帯を対象に玄関先を雪かき。雪かきと地域の見守りの両輪で活動している。これまでは男性のみだったが、現在レディースヘルパー結成に向けて準備中。

令和2年のスノーヘルパー

- 1月～2月の日曜日10時～11時30分
 - 1月19日、26日、2月2日、9日、16日(男性)
 - 1月18日、2月1日(女性:主に訪問見守り活動)
 - 集合場所 赤名バス車庫前(10時集合)
- ※雪が少ないときや悪天候の場合は、告知放送でお知らせします。



赤名自治振興協議会会長の景山治さん

10年ぐらい前かのお。これから子どもたちが減ってお年寄りが増えたら、雪かきせにやいけん世帯がもっと増えると思ったのは。

そのときは、たまたま近所のお年寄りの家2・3軒の雪かきをしとって「近所のお年寄りが困ると、自分一人の力じゃどうにもならん」と痛感させられた。そして1年前に赤名自治振興協議会の役員になったけえ、「地域での雪かき」を提案したら、みんなが賛同してくれた。

感謝されたくてやっとなるんじやお

て、助け合いの精神。勝手にやっとなるだけえ、黙ってやればいい。ちょっとしたお節介みたいなもんだ。ワイワイ楽しく、たわいもない話をしながら適度にやっとなるよ。ときには自治振興のこととか真面目な話もするけど。

普段の生活の中でお年寄り世帯を訪問する機会はなかなかない。今は男だけで見守りをしとるが、男だけじゃなかなか見守りって感じじゃないのかもしれない。それで今年にはレディースヘルパーを募集して、主にお年寄り世帯の訪問見守り活動ができんかと考える。これまでは男たちが勝手にやっとなるだけだったかもしれないが、これからは住民の声を聞きながらの雪かきができたらいい。でもみんなにとって負担にならない程度にやらにやいけん。緩やかに長く活動が続いていけばそれでいいじゃないか。やっぱり自分の育った地域は明るく元気であってほしい。雪かきばっかりじゃなしに、地域全体で声かけができるようになっていけばいいよのお。



小型除雪機も大活躍



達成感に満ちた笑顔で



雪がきたらまかしとけ

住民の不安を 雪と一緒に吹き飛ばす

有償ボランティア スノーレンジャー

平成21年6月結成。谷地区の全(約80)世帯を対象とし、除雪依頼のあった家の周辺から主要道路までの除雪を担う。屋根の雪下ろしは行っていない。料金は1時間あたり1,500円(以後30分ごとに500円)。ポリシーは「自分のところだけでなく、よそのところも」。



スノーレンジャーができたきっかけは、実のところ自分が困っていたんです。隣の家に自分の母親が住んでいて、雪かきが負担でした。それで「他にも困ってる人がおるかもしれん」と思い、谷地区の皆さんに相談してみたんです。一人じゃ腰が重いけど、みんなでやればできるんじゃないかと。そしたら17人が快く引き受けてくれて、組織が立ち上がりました。これが10年前のことですね。今も立ち上げ当時のメンバーで活動しとって、雪かきはもちろん、秋口には地域の見守りを兼ねて、家の庭や道を点検しています。



事務局を務める澤田定成さん

活動を続ける中で、隊員の高齢化とか機械の寿命とか、いろいろ問題は出てくるけど、「ありがとう。雪が降っても安心できる。ほんに感謝しとる」と言われたときは素直にやってきて良かったなと思う。喜んでくれる人がいる、必要としてくれる人がいるから今まで続けているのかもしれない。でも義務でやっとなるわけでもない。自分たちが楽しくやればそれでいい。単純にきれいになれば気持ちいいし。

生活の面から言うと、雪は降らんでほしい。でも活動するには降ってほしいところも少し。今年も除雪機や除雪場所・経路の点検、安全講習会、隊員間での情報共有など、長い準備期間は終わった。あとは雪を待つだけです。

スノーレンジャーとして雪を見て10年。今では「大雪は災害」という認識を持つようになりました。それまでは心のどこかで「降って当たり前」と思ってたし、特に気にしてなかった。災害の観点で考えれば、地域でやれることはまだまだあるんじゃないか。そんなことを考えながら今でも試行錯誤しています。ただの雪かきじゃなくて、地域づくりにつながっていけばいいよね。



雪を退かしにどこまでも



ここは要注意だね



おそろいの防寒着でさらに深まる絆

第2章 逃れられないのなら、 楽しめばいい。

まちに広がる共助の動き